

【ご意見・ご要望・ご質問】

まちづくりと地域包括ケアが結びつかなかったので、なるほどと思った。医療系の大学としてはハード面への取組よりも医療、介護連携等、現場での枝葉の部分の取組に対する事例等の報告を伺いたい。

お話を聞いた大規模な住宅ほどではない100世帯程度の都住、区営住宅が担当管内に15カ所ほど点在しています。（地域包括で）大規模でない民間の会社からはうま味はないということでしょうか。高齢化した住民の方々だけではどうにもなりません。地域包括ケアシステムの設定である中学校区単位でも地域をとらえていく必要を感じます。

青葉台やひばりが丘等地域コミュニティに活気がある＝地域包括ケアの推進となるのだと思いました。

高齢者、障害者、子育て世帯（子供）への支援は広く浸透してきたと感じるが、それ以外の支援、たとえば単身、ひきこもり、低所得者などなど支援を必要とする対象は多いと思う。そのような方々も含めた支援についても考える必要があるのではないのでしょうか。

たいへん厚かましいお願いで恐縮です。今後の活動にあれば助かる点を3点書きます。
1.地域ごとにさまざまな問題点が存在すると考えられます。何が問題点なのかを抽出して、お示し頂けると助かります。又問題点抽出の実施方法について、「地方都市」型市町村での取組例をお示し頂けるとも助かります。
2.多職種連携に入るまえに、職種内連携をとる必要を感じています。職能団体が動くには時間が必要と考えられますので、各職能団体内の分科会的団体の存在を例えばモデルとしてお示しいただくあるいは、育成していただくと助かります。
3. 職能団体はたぶん収入の可能性が全くないと動きにくいと考えられます。継続して参画されているところの収支のこと、何か資料があれば助かります。
今後のセミナーで聞かせていただける事を期待しております。
多くの充実したご発表をもっと伺いたいと思いと時間管理へのお願いがございます。次回への楽しみとか資料のより一層の充実で司会の方すみませんが、よろしく願いいたします。

- ・「大規模住宅の概況」については、情報量多く、何を吸収すれば良いか分からず困りました。PPの資料と手元の資料は同じにして欲しいこと、細かすぎて見えなかったことなどもありました。
- ・事例発表者に地域包括や市町村、医療など多方面からの視点が欲しかった。
- ・もっと現場に近い方の発表だったら、良かったと思う。
- ・開催のチラシにもっと詳しい内容を明記して欲しかった。求めていた内容を得られなかった。
- ・リレートークでは会場の質問を受けず司会者が質問するのはいかがなものか。運営をもう少し考えてください。
- ・団地内のみにとどまっていると感じましたが、まわりの地域も含めた「地域づくり」についてどの様な考え、対応しているのか知りたかった。
- ・神奈川県の記事は良かったです。

「地域包括ケア」という名が入っていたので、参加させていただいたが、そもそも所属に「地域包括支援センター」の名称はなく、場違いであったことに気づきました。地域包括ケア応援セミナーとは、実践発表者を拍手で応援するセミナーであったのですかね。まるでそういう会でした。もう少し募集要項に詳細を書いてくださるとありがたかったです。

各地域の公社の事例がとても参考になりました。時間配分をもっと多くしての方がよかったのではないかと感じました。
厚生局説明は聞き取り辛かったです。私自身介護予防を担当する部署におりますので、介護サービスの充実やまちづくりもすばらしい取組だと思いますが、さがみ原市の体操のように、体も元気になる取組も進めていくべきだと感じました。

行政らしからぬ発言で申し訳ありません…団地再生を進める上では、都市計画変更は大きな問題と考えます。横浜でも大規模団地に近接して、小中学校がありますが、次々と閉校が進んでおり、この廃校を活用した、地域包括ケアシステムの実政について、市民等から要望をうけていますが、都市計画の制約のある中でなかなか前に進まないのが現状です。地域包括ケアを実政するような計画変更の場合、手続きの簡素化を厚労省としても提案して頂きたい。
財政的な制約が多いため、どのように住民と進めたかの部分をソフト面での取組事例をもっと多く聴けたらと思いましたが、とても勉強になりました。ありがとうございました。

勉強不足なのですが・・・。
大規模集合住宅は皆URや住宅供給公社が全てかかえているわけではないと思います。住宅を管轄している国担当者がどういう方針を示して、どう通達しているのかが、わからない。（他部署の情報が入ってない）分かれば、庁内や関係部署・団体にも話を持っていけると思うのですが、地域包括ケアは全ての人にに関することだと思っているので、そういう厚労省以外の動きを教えてくださいたい千葉県の住宅供給公社の活動は？知りたかった。同じ動きをしているのでしょうか。活動の一覧がほしい。

【ご意見・ご要望・ご質問】

各々の取り組んでいる事業に関しては興味深くききました。できれば、会場からの質問の時間もある程度確保できるとよいのかなと思いました。

医療や介護サービス提供と受給という立場に比較的なりやすいのかと思いますが、生活支援は文字通り生活者主体です。口で言う以上に生活者主体、住民主体というのは難しいテーマだと思います。大学はあくまで「部外者」であり、いかに住民の生活に受け入れられるか課題に感じています。地域包括ケアシステムが「大きなお世話」で終わってしまわないように、大学や行政等が関わっていきけるか考えていきたいです。

やはり、申請が出たあとのサービスが少なく感じています。特に要支援から自立になった時、利用できるものがありません。その様なサービスを期待しています。

リレートークについては、神奈川県住宅公社の発表のみが「住民」にスポットが当てられていたように感じました。住民（主体・参加）で進めるのが、地域包括ケアシステムの重要な視点かと思います。

管内エリアにも都営住宅があり、JKKの担当者の方から、住民の安否確認についての問い合わせが時折あります。心配な住民の方も多々把握しておられると思いますので、定期的にも意見・情報交換等を行う機会があったら良いと思いますが、いかがでしょうか？

神奈川と埼玉の取組に共感しました。ただし、担手の確保が無くては箱物の利用にも限界があるのは現実ですね。実際に取り組んでいる業界とタッグを組むことを提案します。

つまらなかった。

住まいを中心とした地域包括ケアシステムに関する取組の事例は大変参考になった。

特段ございません。

参考になりました。ありがとうございました。

ありがとうございました。時間、場所ともにとっても良かったです。

各セクション資料が多く、現状の報告まで内容を伝えきれていない。

会場の空調がとても寒かった。時間配分を注意して頂きたいと思います。

タイム管理に気を配った方が良かったと思います。（所定時間になったら鐘を鳴らすなど）

終了時刻を厳守していただきたい。

【厚生局説明関係】

地域ケア会議はどこが主催していくのでしょうか？
地域包括ケアについて情報共有していくことでケア会議が行われていくのではないのでしょうか。

普段の業務に取り組む中で、地域包括ケアシステムの個別事例を知る機会はあるが、地域包括ケアシステムの全体像がいまいちはっきりしないと感じています。木は見えるのだけれども森は見えないという感覚です。

よい設備があるので。（公的なところはお金をかけてるから）

本日のリレートークでも課題としてあがりましたが、介護職、看護職等の人材確保が難しいという点を何とかして欲しいです。施設等は作られても、その中で働く人材が不足しては、実際に稼働出来ません。

入居者・利用者や地域の方の声について話を聞きたかった。（要介護から要支援に改善したなど、団地の特性コミュニティ、形成による効果）→神奈川県JKKさんの話は参考になりました。

「元気であれば、なんでもできる」社会の推進対策を望みます。

【UR説明関係】

説明のスピードが速すぎる。

UR大規模集合住宅内に展開している介護事業所には昨今の人材確保困難な状況に対し、スタッフ向けの住宅を安価に貸して欲しい。月々の家賃の値引き又は初期費用の無料化を進めて頂けたら、地域にスタッフも点在することになり、安心感もあるのではないのでしょうか。

説明スライドと資料が合っていない（不足している）ため、具体例が分からない。主催者側からの質問が何を言いたい（聞きたい）のか分からなかった。（早口で話が行ったり来たりしている）

【UR説明関係】

パワーポイントの画面や情報と頒布資料が一致しておらず情報の収集や理解に制限がかかったものがあった。パワーポイント一枚に情報が盛り込みすぎて見えないものが多々あった。URの都合のよい話しか提供されないなど、不信感につながると思う。

資料と説明がマッチしづらかったです。ご講義ありがとうございました。

ウェルフェア戦略で、みさと団地と他の地域との差があると思うのですが、この差は自治体の力不足でしょうか？

住民その他の公的機関（私は包括支援センター）と協力して行きたいが、個人情報に壁になっている。孤独死が多くあるのでなんとかしないとと思っています。URなりに考えていると思いますが、一緒に考えていけないといけません。連携する方法がありません。何とかしましょう。

医療や介護サービス提供と受給という立場に比較的なりやすいのかと思いますが、生活支援は文字通り生活者主体です。口で言う以上に生活者主体、住民主体というのは難しいテーマだと思います。大学はあくまで「部外者」でありいかに、住民の生活に受け入れられるか課題に感じています。地域包括ケアシステムが「大きなお世話」で終わってしまわないように、大学や行政等が関わっていきけるか考えていきたいです。

高齢者のADLの維持、都市部の緑地化対策（コミュニティ・住民交流）から住宅に農業が可能な施設を構築することはできないか。

- ・資料の不足及びデータが古いものが一部あった（世帯率や世帯主年齢）
- ・全国的に自治会加入率の低下未加入や脱退率の増加傾向ですが、多世代交流には自治会組織の交流が不可欠ですが、その特徴を伺いたい。またUR説明関係団地内の自治会運営は何か特別なノウハウや仕組みがあるのかも教えて下さい。

【全国住宅供給公社等連合会説明関係】

神奈川県住宅供給公社 水上様

若葉台の中に看護師がいることでの安心感について述べて下さってありがとうございます。

神奈川県公社さんの事例や考え方、非常に引き込まれる話だったので、もう少しゆっくり聞きたかったです。

配布資料にないものが多い。自慢話はいかがか。（社長が説明者は考えもの）

- ・高齢者支援において具体的な取組の事例紹介にて勉強になった。
- ・現状の取組をしていない人も高齢年代であることも多く、自治会問題にもつながるが、後継対策について伺いたい。

- ・内容は簡潔なものであったがわかりやすく情報の開示方法の仕方も適切な印象である。
- ・東京都住宅供給公社の話が分かりやすく良かった。事例紹介のひな形として他のメンバーもならってほしい。神奈川県住宅供給公社の話も非常に参考になった。本来聞きたかった内容が神奈川県には備わっていた。神奈川県と東京のスピーカーの意見交換を聞いて理解を深めたいと思った。埼玉は埼玉で動向の把握に参考になった。
- ・司会が高齢の時間配分を偏らせていたため、せっかくのプログラムの意味が小さくなりもったいないと思った。

【厚生局説明関係・UR説明関係・全国住宅供給公社等連合会説明関係・共通】

- ・地域包括ケアの構築を考えるにあたり、自身の地域ではいろいろな事が始まったばかりで（地域ケア会議など）課題が多々あるので、今回の集合住宅での地域包括ケアのモデルケースや事例の話聞くことができて大変参考になりました。
- ・神奈川県の方の話がわかりやすく、ビジョンや思い、信念の様なものが伝わり、自分自身も共感できるものがありました。様々な資源・資産の活用、思いの共有など、重要なポイントを学べました。

地域包括ケアシステムとして障害者施設の設置を希望します。全国的にも展開しているところが少なく、高齢化対策も重要だが、障害者GH作業所等を積極的に行うべきでは！

【UR説明関係・全国住宅供給公社等連合会説明関係・共通】

各団体の先進的な取組事例が非常に参考になった。当公社も積極的に取り組んでいきたい。

説明が早すぎて理解できない。

(居場所・サービス拠点等)空き家・空き店舗等を活用した取組を行う際、実際の運営も含めた委託等も可能か？

【UR説明関係・全国住宅供給公社等連合会説明関係・共通】

個人情報保護の問題を考えると、居住者全員の情報は得られているのでしょうか。

- ・地域包括センターとして、地域ケア会議を管内の団地で行おうと準備していますが、なかなか理解が進まない現状にあります。包括より声かけがあった場合は、ぜひ地域ケア会議へ出席していただける様、社内の声かけ推進をして頂けたらと思います。
- ・地域の包括と、UR、公社間での情報交換会や連携会議があれば良いと思います。

【UR説明関係・その他・共通】

乱暴な例えですが、大規模多機能の住居地区という印象だったのですが、すでに一戸建てで地域が構成されている地域で、今回発表のあった連帯というものを構築していくには、キーマンとなるコーディネーターが必要になると感じました。それは誰が担っていくのか。また、発表にあったようなシステムを一戸建てで地域が構成されている地域で構築していくうえで、外せない条件はなんのでしょうか？

【その他】

業務に携わっていると福祉分野を更に横断的に機能させる必要性を感じます。しかし、現状はそれぞれの分野がその役割を担うことが精一杯で、他分野にまで目がいきません。これは行政の大きな役割であると思います。それぞれの専門家たちをつないでいく。連携の図れる体制作りに期待します。

スクリーンと資料で同じものを使ってほしい。

行政の方ばかりではなく、民間の法人等（NPO法人も）の方のお話も聞いてみたい。

リレートークで時間がおしているのに進行系の質問が長い。簡潔にお願いしたい。

- ・民間主導の成功事例・参考事例があれば知りたい。（株式会社など→ココファイン・SONPOケア・東京建物リニアライフサポートなどはサ高住事業の中に地域包括ケアのような地域理念を入れているが、「サ高住単位」「決算連結」しないで黒字化できているかなど）
- ・自治体による特色の違いを知りたい。たとえば、地域包括ケアに力を入れたい。自治体は理解の基盤や補助制度があるのではないかな。

小規模ながら地域の支え合いの場として有志と友に高齢者や障害者が安心して暮らせる「みぬまハウス」という施設を運営しています。一人住まいの高齢者の生活支援や介護サービス・福祉移送など、ワンストップで悩み事、相談事の窓口として地域に定着しつつあります。介護事業者だけでなく、住民主体で取り組む地域包括ケアも必要だと思います。地域の多様な人材をどのように活用していくかは、自治体と地域にある小規模な「さまざまな人々が集える拠点」どの役割分担も必要かと思い、有効な支援策が小規模事業者にも行き渡るように（事業者の家賃補助など）要望します。

少子高齢対策が、高齢者対策に集中しており長期的な視点から前向きな対策では無い様に思われます。子育て支援と地域包括との関連付けが弱いのでは、その点では若葉台の事例では明確でした。整備の際に医療施設は新設されている様に見受けられましたが、既存の医療機関との連携はどの様にとられているか気になりました。私は医療、医薬品卸業者として、地域包括ケア事業との関わり方を模索している中で参考となる所も御座いました。

- ・具体事例が聞けて参考になりました。ありがとうございました。
- ・時間管理をお願いしたい。
- ・神奈川兼住宅供給公社のプレゼンが良かった。

・公営住宅を所管する部署（都道府県住宅部局）の考えを聞く機会を設けても良いかと思えます。（公社に管理をまかせる立場として、公営住宅の高齢化をどう思っているか、福祉部局との庁内連携をどのように考えているか等）
（自治体としての住宅政策に、公営住宅の活用をどう位置づけているのか等）（障害となりうる管理規定の所在の有無等）

参加者名簿の作成-配布をお願いいたします。

元気であれば消費活動（旅行・買い物）も維持される。これが経済の活性化にもつながる（医療費に使わなくてすむ）この好循環のために国が財政を含めて支援するべきであると考えます。

- ・男性の10%が自立との統計があるとのことだが、これはそのまま元気で健康であるとうのみにはできないと考える。たださえ、男性の方が介護保険をうける事への抵抗や拒絶葛藤が強く、専門職が見ても要支援・介護相当の人は潜在的には多いです。それを踏まえた分析も必要です。